

紫外線観測データの解説（XML フォーマット）

紫外線観測データ XML の構造は気象庁防災情報 XML フォーマットに従います。本解説は現在の紫外線観測データ発表の運用に則してさらに詳細に記述していますので、今後の運用の変更に伴って本解説の内容が変わる可能性があります。

1. Control 部

```

<Control>
  <Title>紫外線観測データ</Title>
  <DateTime>2009-07-30T11:26:00Z</DateTime>
  <Status>通常</Status>
  <EditorialOffice>気象庁本庁</EditorialOffice>
  <PublishingOffice>気象庁地球環境・海洋部</PublishingOffice>
</Control>

```

1 - 1 Title

電文の種別を示すための情報名称。

〔解説〕 “紫外線観測データ” で固定。

1 - 2 DateTime

発信時刻。

〔解説〕 年月日時分秒を UTC 表記の DateTime 型で記載する。

1 - 3 Status

運用種別。

〔解説〕 “通常” “訓練” “試験” のいずれかを記載。

1 - 4 EditorialOffice

編集官署名。

〔解説〕 “気象庁本庁” で固定。

1 - 5 PublishingOffice

発表官署名。

〔解説〕 “気象庁地球環境・海洋部” で固定。

2. Head 部

```

<Head xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/informationBasis1/">
  <Title>紫外線観測データ</Title>
  <ReportDateTime>2009-07-30T20:26:00+09:00</ReportDateTime>
  <TargetDateTime>2009-07-30T20:00:00+09:00</TargetDateTime>
  <EventID />
  <InfoType>発表</InfoType>
  <Serial />
  <InfoKind>環境気象情報</InfoKind>
  <InfoKindVersion>1.0_0</InfoKindVersion>
  <Headline>
  <Text />
  </Headline>
</Head>

```

2 - 1 Title

情報の標題

〔解説〕 “紫外線観測データ” で固定。

2 - 2 ReportDateTime

発表時刻

[解説] 発表時刻を JST 表記の DateTime 型で表記する。時刻は分単位で、秒は常に“00”。

2 - 3 TargetDateTime

基点時刻（観測時刻）

[解説] 本電文に格納される最新の観測時刻を、JST 表記の DateTime 型で表記する。時刻は時単位で、分、秒は常に“00”。

2 - 4 EventID

識別情報

[解説] 常に空タグとなる。

2 - 5 InfoType

情報形態

[解説] 1 “発表”で固定。
2 電文には、観測当日の 04 時（JST）から TargetDateTime までの毎正時のデータが記載されており、20 時（JST）まで毎時発表される。常に最新の電文に記載されたデータが有効となる。

2 - 6 Serial

情報番号

[解説] 常に空タグとなる。

2 - 7 InfoKind 及び InfoKindVersion

スキーマの運用種別情報（InfoKind）、及びスキーマの運用種別情報のバージョン番号（InfoKindVersion）

[解説] 1 InfoKind は、“環境気象情報”で固定。
2 InfoKindVersion には、バージョン番号を文字列で記載する。

2 - 8 Headline 部

2 - 8 - 1 Text

見出し文

[解説] 常に空タグとなる。

3. Body 部

```
<Body xmlns=http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/meteorology1/
      xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
  <MeteorologicalInfos type="紫外線観測データ">
    <TimeSeriesInfo>
      (略)
```

3 - 1 MeteorologicalInfos

[解説] 属性 Type は“紫外線観測データ”のみ出現し、1 回だけ出現する。

3 - 1 - 1 MeteorologicalInfos[@type="紫外線観測データ"]部

“紫外線観測データ”に関する情報を記載する。

[解説] “紫外線観測データ”の時系列データ（TimeSeriesInfo 部）を記載する。

3 - 1 - 1 - 1 TimeSeriesInfo 部

時系列の定義情報（TimeDefines 部）、観測点毎の時系列データ（Item 部）を記載する。

[解説] TimeSeriesInfo 部は MeteorologicalInfos[@type="紫外線観測データ"]部内に 1 回だけ出現する。

3 - 1 - 1 - 1 - 1 TimeDefines 部

時系列の定義情報を記載する。

```
<TimeDefines>
  <TimeDefine timelD="1">
    <DateTime>2009-07-30T04:00:00+09:00</DateTime>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timelD="2">
    <DateTime>2009-07-30T05:00:00+09:00</DateTime>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timelD="3">
    <DateTime>2009-07-30T06:00:00+09:00</DateTime>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timelD="4">
    <DateTime>2009-07-30T07:00:00+09:00</DateTime>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timelD="5">
    <DateTime>2009-07-30T08:00:00+09:00</DateTime>
  </TimeDefine>
  (略)
  <TimeDefine timelD="17">
    <DateTime>2009-07-30T20:00:00+09:00</DateTime>
  </TimeDefine>
</TimeDefines>
```

- [解説]
- 1 TimeDefines 部は、TimeSeriesInfo 部以下に 1 回だけ出現する。
 - 2 TargetDateTime は、観測対象時刻を JST 表記の DateTime 型で記載する。時刻は時単位で、分、秒は常に“00”となる。
 - 3 要素 timelD は 1 から最大で 17 まで出現し、timelD=“1”は観測年月日の 4 時 (JST)、timelD=“17”が 20 時 (JST) に対応する。
 - 4 観測年月日の 4 時 (JST) から Head 部の TargetDateTime で示す時刻まで、1 時間毎に定義される。

3 - 1 - 1 - 1 - 2 Item 部

観測地点毎の要素 (太陽天頂角、UV インデックス) の時系列データ (Kind 部) と観測地点情報 (Station 部) について記載する。

```

<Item>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>太陽天頂角</Type>
      <SolarZenithAnglePart>
        <jmx_eb:SolarZenithAngle unit="度" refID="1">94.5</jmx_eb:SolarZenithAngle>
        <jmx_eb:SolarZenithAngle unit="度" refID="2">84.6</jmx_eb:SolarZenithAngle>
        (略)
        <jmx_eb:SolarZenithAngle unit="度" refID="16">91.1</jmx_eb:SolarZenithAngle>
        <jmx_eb:SolarZenithAngle unit="度" refID="17">100.1</jmx_eb:SolarZenithAngle>
      </SolarZenithAnglePart>
    </Property>
  </Kind>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>UVインデックス</Type>
      <UvIndexPart>
        <jmx_eb:UvIndex refID="1">0.0</jmx_eb:UvIndex>
        <jmx_eb:UvIndex refID="2">0.1</jmx_eb:UvIndex>
        (略)
        <jmx_eb:UvIndex refID="16">0.0</jmx_eb:UvIndex>
        <jmx_eb:UvIndex refID="17" />
      </UvIndexPart>
    </Property>
  </Kind>
  <Station>
    <Name>札幌</Name>
    <Code type="気象・地震・火山情報／市町村等">0110000</Code>
    <Code type="国際地点番号">47412</Code>
    <Code type="WOUDC 地点番号">012</Code>
    <Location>北海道札幌市</Location>
    <jmx_eb:Coordinate>+43.060+141.329</jmx_eb:Coordinate>
  </Station>
</Item>

```

[解説] Item 部は、TimeSeriesInfo 部内において 3 回出現する（札幌、つくば、那覇の 3 観測地点分）。

3 - 1 - 1 - 1 - 2 - 1 Kind 部

要素ごとの時系列データを記載する。

[解説] Item 部以下に、太陽天頂角と UV インデックスの要素について、それぞれ 1 回ずつ出現する。

3 - 1 - 1 - 1 - 2 - 1 - 2 Property 部

要素ごとの時系列データを記載する。要素名 (Type) と各要素の時系列データを記載する。

[解説] 1 Property 部は、Kind 内に 1 回だけ出現する。

2 Type は、太陽天頂角と UV インデックスの 2 要素が出現する。

3 - 1 - 1 - 1 - 2 - 1 - 2 - 1 Type

Property 部で内容を記載する要素名を記載する。

[解説] 1 Property 部内に 1 回だけ出現する。

3 - 1 - 1 - 1 - 2 - 1 - 2 - 2 SolarZenithAnglePart

太陽天頂角の時系列データを記載する (SolarZenithAngle)。

[解説] 1 太陽天頂角 (SolarZenithAngle) には、属性 refID (時系列の参照番号) で指定された観測対象時刻における太陽天頂角を記載する。属性 unit は“度”で固定。

2 太陽天頂角 (SolarZenithAngle) には、常に小数点第 1 位までの実数値が入る (NULL 値は入らない)。

3 - 1 - 1 - 1 - 2 - 1 - 2 - 3 UvIndexPart

UV インデックスの時系列データを記載する。

[解説] 1 UV インデックス (UvIndex) には、属性 refID (時系列の参照番号) で指定された観測対象時刻における UV インデックスを記載する。

- 2 UV インデックス (UvIndex) には、小数点第 1 位までの実数値が入る。観測データがない場合は NULL 値が入る。

3 - 1 - 1 - 1 - 2 - 2 Station 部

Item 部で表示する対象となる観測地点の名称 (Name)、コード (Code)、市町村名 (Location)、緯度経度 (jmx_eb:Coordinate) を記載する。

- [解説]
- 1 Station 部は、Item 部以下に 1 回だけ出現する。
 - 2 Name は、「札幌」「つくば」「那覇」のみ出現する。
 - 3 Code に用いるコード種別名は、“気象・地震・火山情報／市町村等”、“国際地点番号”、“WOUDC 地点番号”。
 - 4 観測地点の名称 (Name) と市町村名 (Location) の対応は以下のとおり

Name	Location
札幌	北海道札幌市
つくば	茨城県つくば市
那覇	沖縄県那覇市